

ヒューマンライツ・ナウ (HRN) 震災プロジェクト・チーム

2011年4月・5月被災地現地調査報告書

国際人権 NGO ヒューマンライツ・ナウの震災プロジェクト・チームは、2011年4月29日～2011年5月8日にかけて、東日本大震災に被災し、また原子力発電所の事故の影響を受けた福島県および宮城県の被災地および避難所に訪問し、現地の被災者・避難者・避難勧告を受けている人、その他影響を受けている人々の人権状況を調査しました。

その結果、憲法、災害救助法、国際人権法、避難者・災害被害者に対する国際的な保護ガイドラインが示唆する人権保障が十分に実現せず、由々しき事態であることが判明しました。

また、被災者からは復興に向けた様々な願いが語られており、今後の復興過程に被災者が参加し、被災者の声が十分に反映される必要性があることが明らかになりました。

本報告書は、いち早く被災地の声を伝えようということで、ヒューマンライツ・ナウの通常の報告書と異なり、聴き取りをそのまままとめたものとなっています。

ヒューマンライツ・ナウでは、現地調査に基づく政策提言を行っていますが、今後も、被災者、特に脆弱な立場に置かれた方々の人権が尊重されるよう、復興過程において被災者の声が反映されていくよう、提言活動を続けていく予定です。

ヒューマンライツ・ナウ
震災プロジェクト

2011年5月

【調査期間】

2011年4月29日～2011年5月8日

【調査メンバー】

1. 後藤 弘子 (HRN 副理事長、千葉大学大学院人文社会科学研究科教授)
2. 伊藤 和子 (HRN 事務局長、弁護士)
3. 田部知江子 (HRN 会員、弁護士)
4. 原田いずみ (HRN 会員、弁護士)
5. 米川 正子 (HRN 会員、宇都宮大学特任教員)
6. 堤 雄史 (HRN 会員、弁護士)
7. 若宮ちひろ (HRN 会員、神戸大学大学院国際協力研究科)
8. 大川 秀史 (HRN 会員、弁護士)
9. 細井 明美 (HRN 会員)
10. 浅井 美絵 (HRN スタッフ)
11. 西方さやか (HRN スタッフ)

【主な調査対象地域¹及び報告担当者】

1. 4月29日：福島県郡山ビッグパレット (福島県郡山市南 2-52)
2. 4月29日：福島県郡山市
3. 4月29日：福島県相馬郡飯舘村
4. 4月30日：福島県南相馬市
5. 5月7日：宮城県仙台市
6. 5月8日：宮城県石巻市
7. 5月9日：坂総合病院 (宮城県塩釜市錦町 16-5)
及び多賀城市文化センター (宮城県多賀城市中央 2-27-1)

¹ 主な調査対象地域の位置関係については下記リンクを参照されたい。

<http://maps.google.co.jp/maps/ms?hl=ja&ie=UTF8&fb=1&gl=jp&hq=%E6%96%87%E5%8C%96%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC&hnear=0x5f8985f16b2d45b9:0x83b39647948b3ccf,%E5%AE%AE%E5%9F%8E%E7%9C%8C%E5%A4%9A%E8%B3%80%E5%9F%8E%E5%B8%82&brcurrent=h3,0x60200d991cc0aa93:0xb24e911473db36cb&msa=0&msid=205299047210862984705.0004a437d0dd9a8be32ae&ll=37.909534,140.537109&spn=1.945875,3.521118&z=8>

福島（2011年4月29日－30日）
調査報告
ヒューマンライツ・ナウ
参加者：後藤、伊藤、田部、原田、米川、若宮、堤

第1．4月29日：郡山ビッグパレット

1 概要

- ・ビッグパレットには、全員で1600人（富岡町の人が1200から1300人、川内村の人が260人程度）避難している。
- ・富岡の役所（県の災害対策本部）自体がビッグパレットにある。
- ・ボランティアがたくさん入って活動をしていることから、ボランティア・センターを立ち上げようとしている。

●施設の状況

ビッグパレットは、部屋の中だけでなく、廊下にもダンボールで生活している人がたくさんおり、衛生面などを含めて遅れている。

病気の人には、完全な仕切りのあるスペースが提供されているが、他のスペースは仕切りが低い、上の階にいくと仕切りがないなど、劣悪。

メガネを踏まれたために壊れたということもある。今度、余震が起きたときには、廊下に寝ている人は危険である。そのため、皆、余震が来ても動かないという。

- 洗濯機があるが、女性が安全に洗濯ものを乾燥するスペースが不足しており、下着を公衆の面前で干さなければならない状況。しかも干せない人もいる。
- 食事は支援物資が山積みとなって保管されているが、避難者に割り当てられる食事は昼食は菓子パンとおにぎりという内容であった。
配給に2時間並ぶという状況。自衛隊が炊き出しなどを行っている。
- 医療：東京のチーム、富岡の医師2人が、避難所の診療施設を運営。
- 郵便：プラカードをもってビッグパレット内を回って、個人を探す（ヤマト運輸は、人数分揃っていないと配布できない）。
- 女性の更衣室は先週出来た。「こんな緊急なときにそんなわがままな」という雰囲気であったが、実現させた。

2 各団体の活動などについて

- 弁護士の無料相談：相談スペースを避難所の別棟に確保している。
そのままでは避難所から相談者がこないのので、弁護士がプラカードを



下げて避難所を回っている（プラカードが目立つので）。

●外国人の相談：電話相談のチラシがおいてある。

→ビッグパレットにもベトナム系、ブラジル系の方などを見かける。

●女性相談（弁護士、女性の自立を応援する会、しんぐるまざあず・ふぉーらむ福島などから聴き取り）。

女性の自立を応援する会、しんぐるまざあず・ふぉーらむ福島などのこれまで県内の女性支援をしてきた団体が一緒になり、被災女性支援活動を開始した。女性支援ネットワークこおりやま準備会として活動している。

・4月12日に女性専用スペースと女性相談コーナーを設置することを要望する要望書を提出→「ほっとカフェ」という民間が運営する相談コーナーで相談受付ができるようになった。

→問題は、「ほっとカフェ」には、人は来ないということ。その理由は、物がなくなるので、怖くて出られないというもの。盗難は多い。

これ以外に県が運営する女性専用スペースが出来た。

こちらには人が出入りしており、今後相談もこちらに移すことを検討している。

・女性用トイレなどに、パープルホットラインなどの情報を貼り出している。

3 しんぐるまざあず・ふぉーらむ福島ほか、女性団体からの話

【子どもたちの悩み】

・小中学生は近隣の学校へ行っている。

・高校生は行く学校が決まっていないために、悩んでいる。

そのため、英語教室を行っている（一日7～8人）。今後は中学生にも行う予定。

【ピアカウンセラー】

・同年代の子どもに資格をとってもらって、同世代の子どもにカウンセリングをするという取り組みを続けてきて、大学生を対象にして避難所の大学生の相談に乗るということをしてきた。

・しかし、高校生に手が届いていない。

・*おそらく、高校生くらいの年代の中卒や高卒で働いている子ども・若者を把握するのが難しい。そこで、高校生のピアカウンセラーも開始することになった。

【女性相談】

・パープルホットライン：女性のためのラインで回線は2つだが、電話は多く、ほとんどがDVについて。回線を増やす方向。

【DV被害者の状況】

・DVで元夫と離婚、保護命令を得て安定していたが、避難することになり、地域が同じなので、元夫が同じ避難所にいるかと思うと怖くて夜も眠れない。女性だけの専用の部

屋をつくってほしいと訴えたり、元夫がいないかを確認してほしいと頼んだが、避難所を運営している市は、「住民票を移動して市民になったら保護するが、今はそうでないから対応できない」として対応してくれない。住民票を移動すべきかどうか悩んでいるという相談。

- ・ 県では女性のシェルターが福島市にあるが、今被害を受けている人でいっぱいなので、被害を受ける可能性のある人までは受け入れられない。見つからないよう、車で寝泊りし、避難所を転々とするとのこと。その後、連絡が取れなくなるようになってしまった。
- ・ 警察に相談しようとしても「今そんなことを言っている場合ではない」と対応を拒絶された。
- ・ DV 被害者の方が精神的な課題を抱えても、病院が足りず、ケアができない。薬をたくさん渡して終わりにすることも多い。
- ・ 小さい子どもを抱えて磐梯熱海の温泉に避難したが、情報も物資も来ない。
- ・ おむつがないので助けてほしいということで電話がかかってきた。

【心のケア・精神疾患の患者さんなどの状況】

- ・ 県立医大の心のケアチームとして南相馬市に入って活動した。東北では精神的疾患に対するアレルギーがあり、スティグマという意識が強いので、心のケアですというとなかなか心を開いてもらえず、少しずつ心を開いてもらう活動を進めている。
- ・ 南相馬市には県内でも稀少な精神医療をしている施設があったが、原発の影響で避難を余儀なくされた。しかし、南相馬市の人は県の施設しか入れないため、相馬市内にある廃校に収容された。とても問題のある施設だったが、余震でその廃校自体が倒壊の危険があるということになり、校舎は危ないので4月18日までに出て行くよう通告される。2、3日後に福島市内の飯坂温泉ホテルに500人収容可能なので、そこへ移るようにと通達。その3日後、持ち主が変わり、ホテル側からキャンセルされ、21箇所に分かれて避難することになった（飯坂温泉地域の数箇所に）。学校では教室を使って、相談や救急、歯医者、更衣などの工夫ができ、皆が一緒だったが、分かれたのでそれらが機能しなくなった。また、医師団にとっても一箇所にいた方が対処しやすい。医療体制を続けることが難しい。
- ・ *おそらく、自衛隊や建設業界の人が入ったため、飯塚温泉ホテルが利用できなくなった。
- ・ 南相馬市の原町には戻ってくる人たちが増えている。
一方、相馬市には精神科が一件もなかったため、市より南側の南相馬市の5つの病院に通院していたが、これらの病院は避難地域になってしまい、通院できなくなった。外来の精神科患者が取り残されていった。
災害によって受けた心の傷も深く負うことになるので、懸念している。
- ・ DV ケースは、震災後にDVは2倍から3倍増えると統計的に言われているが、何も備

えがない。避難所では人の目があるが、仮設に移った時にどうなるか懸念。

ある女性はDVをした夫と別居し、それぞれに子どもを引き取って育てていたが、今回の被災で、夫が引き取って育てていた子供が津波にのまれて死亡。夫の元にいた子どもが死んでも、妻に「お前が殺したんだ」となじる。その影響を女性がまともに受けて悔やんでしまう。

- ・ ただし、相談に来るのは女性で、男性心のケアに救いを求めず、本当の問題は出てこない。仮設住宅に入った後にストレスが爆発するのではないか。

相馬で、DVで相談した警察に「この忙しいのに」ということで追い返された。

【医療】 星総合病院の医師から

- ・ 病院自体が被災した。
- ・ 380名の入院患者がいたが、すべて他の病院へ移転し、外来患者も無事に帰宅した。
- ・ 移った入院患者は、精神科病院など、また重症患者は別の病院へ移転した。翌日から、患者を訪問。
- ・ → 病院から病院への移送が多い
- ・ 外来は、薬を渡すために待機していたが、その間に原発問題が浮上した。
- ・ 三春病院は野戦病院状態。
- ・ 県立医大：3月19日から水が復旧した。
- ・ 避難所への医療ケアは当初巡回、その後、診療所が避難所の中に設置されていくところもある。

4. 各課題について

- ・ 女性の下着が必要→しんぐるまざあず・ふぉーらむ福島で対応。
- ・ 間仕切りはできた（皆の顔が見えなくて寂しいという声と、できて良かったという声がある）。
- ・ 女性相談員は、嘱託職員で、3年で終了となるようになった。婦人相談所は、若い人しかとらない。ボランティアに委託するようになったが、専門性が必要であるため、課題。

●避難所以外の避難先について

例) 小さい子どもをつれて逃げ、個室に入れると聞いたが、そこには情報や物がない状態。

- ・ 磐梯の温泉では、食事と住居は提供されるがその他の物資や情報がないため二次避難へ
- ・ 岩手県の花巻の温泉も同じような状況

→ 情報は避難所に集まる。炊き出しや物資、イベントもある。そのため、避難所を出たくない人も多い。

(その他、避難所及び、避難所以外に避難している人のデータが足りない)

●医療

例) 三春町の避難所(富岡町)

- ・避難所と病院の間は、自力で行く必要があり、バスは出ているが、特に手配するような担当もサポートもない。
- ・ビッグパレットも同様に自力で病院に行く必要がある。避難所には、避難した医師が、二本松から通っている。3月末から巡回がある。
- ・工場が被災したため、薬自体が足りていない（直後から一週間で足りなかった）。
- ・直後は、ガソリンがなかったため、外来への対応ができなかった。

●市と県の対応（行政の課題）

- ・郡山市役所：展望台で一人死亡（市役所の上にブルドーザーが乗っている状態だった）。
- ・県の施設：縦割りなので、避難所をどのように支援するかという相互交流がない。
- ・県より市の施設の方が進んでいる（コミュニティの序列がすべて出ているが、声には出せない）。
- ・郡山市内の避難所には、郡山市民でない人々がいる。
- ・相馬市内の市の施設に入るのは、市民のみ。市民が優先になるため、避難民への改善が遅れている。
- ・イベントなどがあるのは、市の施設で、生活に大きな差がある。外から逃れてきた人には回っていない
- ・相馬：津波の被害が多い
- ・南相馬：20km 圏内、20 から 30km 圏、圏外に分かれている→コミュニティが分断。
→ほかの地域の人々は、分断されたくない、という思い。

◎避難者の情報について

- ★市町村は、人々がどこに逃げたかが分かっているため、探す必要がある。

●放射能について

- ・小学校の校庭の土：表面を削ったが、削った後の土が皆に拒否された結果、たらい回しになって、結局、校庭の隅においてある。
- ・親が不安がって、子どもが遊べないということがあり得る。
- ・「大丈夫」とは、誰もいえない。逃げているのに、誰も大丈夫とは言ってくれない。「誰か言って欲しい」、「子どもたちは」、という気持ちで、皆がイライラしている。
- ・学校は安心できるように、市の教育委員会が説明したが、市民からの怒りをかっただけで、話になっていない。
- ・コミュニティとして、また福島が今後どうなっていくのか、不安。
- ・残った人はどうなるのか。職員も辞めた人がいるが、辞められた方は、取り残される。

●差別について

- ・他県に逃げて、拒否された人が、戻ってきているケースもある。

- ・石を投げられたりすることもあった。
- ・危ないからといって、それほど子どもを簡単に人に預けるといことはできない（その辺りの理解もない）。
- ・福島に戻ってきて、こもっていると、またさらに福島が嫌われるのではないか。

●情報について

- ・旅館に避難した人々に情報や物資が届いていない。
- ・個別に他の県などへ逃げた人々に対して、他県ではテレビ画面に被災に関するテロップなどが出ないので情報が届いていない。

→こうした人々へ情報を届ける必要がある

◎福島のテレビには、今、二重のテロップがあり、外側のテロップに福島の情報が、内側のテロップに義捐金などの情報が映されている。

- ・例えば、職を失った人に、失業保険が出るという情報もないため、少し落ち着いた人に対して必要。しかし、何を相談したら良いかが、恐らく解っていない。
- ・地域性もあり、地元の弁護士であれば、地名などからイメージが湧くため、他の地域の人に連絡する場合よりも、説明が省ける。

●被災者の疲れ、不満など

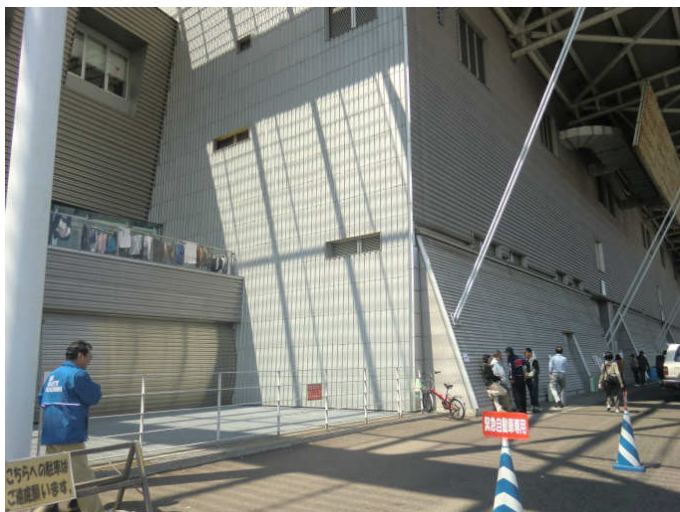
- ・被災後の生活が長くなるので、我慢してきた不満がたまっている。
(県の職員と仲良くなると、えこひいきがあるのでは、他)
 - ・2週間くらいはハイな様子だったが、今はくたびれている。またイライラしている。
 - ・DVのケースなども、もともと治療の必要だった人から、まず浮かび上がってくる（保健師がつないでくれる）。
 - ・発達障害を抱えた子どもの母親。
 - ・病気を抱えた人がパニックになるなど→女性たちがケアテイクとして苦勞している
(ビッグパレット内でも、2週間に4件、警察を伴って移送した) →そろそろ、女性たちが SOS を出し始めるだろう。男性は救援しないので、女性がそれを発見、促してくれるかもしれないという期待。
 - ・まだ、本当に大変な人は浮かび上がっていない。
- *一ヶ月間はハイ→今はウツに→そのうち爆発するのでは。

●仮設住宅に移った後の懸念（孤立化する懸念）

- ★移った後に、見えなくなった場所で、DVなどがもっと出るのではないか。
- ★仮設住宅にパープルラインが必要。しかし、隠れて連絡できるかどうか疑問。
- ★仮設住宅に移る前に情報を伝える必要がある。

5. ビッグパレットの見学から

*ビッグパレットの建物の外部にもチラシがいくつか貼り付けてある。保証についてのお知らせの立て看板などがある。外から、洗濯物が干しているのが見えるが、早い者勝ちだそうで、外から丸見えなので、女性の下着などは干すことはできないだろう。



<ビッグパレット（外から）：左手に洗濯物が見える。右手の壁にはチラシも貼り付けてある>

* 体育館のようなところが、郵便、無料法律相談、さらには一時期、議員の会議（高い壁の仕切りの中で）も行われている。ここで、食事の配布も行っており、並んだ人が最終的にここで食事を受け取る。食事は、一式をダンボールに載せて受け取る形。この部屋にもある程度の物資が山積みになっている。



<食事配布の風景（写真を撮ることに敏感なので、次回以降は控える必要もあり）この後ろは、入り口の外も長い列になっている>

*物資置き場：ダンボールで山積みになっている。仕分けが大変。多くの物資は、避難所では足りているが、避難所以外では物資不足なので、仕分け及び避難所以外の避難した人およびそのニーズの把握と、そこへ物資を届ける必要がある。



★避難所以外での状況把握（専門家によるデータ）が行われた後、民間（物流企業やボランティア）などによって、これらの物資が必要なところへ振り分けられる必要がある。



<物置の隣にある子ども用スペースらしき場所（この場所で、今回は子どもを見かけなかった）>



<避難所のテレビ（ただし訪れた時は誰も見ていなかった）>



*中央部の部屋：間仕切りのある部屋（4月に入ってから、やっと間仕切りができた）
→木製の柱にカーテンで仕切ってあり、柱には名前が書いてある。床にはそれぞれで毛布などを敷いている。